

喜多支部

1 情報教育夏季実技研修会（ホームページ構築）報告

本年度、喜多支部の小・中学校（計 11 校）で、一斉に学校公式サイト（ホームページ）のシステムを切り替えた。

これまで、町の公式サイトの一部として、独自の CMS を使って学校公式サイトを運営してきた。開設以来、当委員会で研修や改善要望を行った結果、情報教育主任を中心に順調に運営されてきたが、先生方からは「郡市をまたいで異動した際に不便である。」「ESnet の新しい CMS は、スマホで投稿できるなど利便性が高くなっている。」「どうせ切り替えるなら、学校単位よりも町全体で変えてはどうか。」との声を受けていた。

そこで、夏季実技研修会で愛媛県総合教育センター情報教育室の指導主事を講師に迎え、新システムで公式サイトを構築する内容の研修を行った。

実際の運営担当者や承認方法は学校ごとにまちまちであり、賛否両論の意見も聞こえてきたが、研修当日はスムーズに CMS を操作して新サイトを構築することができた。

支部委員長として、町教委の担当指導主事と連携を取りながら、申請手続きや時期の調整を行ったことで、段階的にシステムを移行することができた。今後も、1 郡 1 町で構成される喜多支部の利点を生かし、充実した研修を行っていきたいと思う。



【図 1 夏季実技研修会の様子】

2 プログラミング教育に関する小・中連携取組紹介

2020 年度からの新教育課程完全実施にあたり、小学校におけるプログラミング教育の体制作りが喫緊の課題となっている。喜多支部では教育委員会の主導のもと、地域全体で連携を取りながら準備を進めてきた。まず、情報機器入替を契機に、昨年度までに小・中学校とも使用する教材を統一して導入している。小学校理科の「電気の利用」におけるプログラミング学習と、中学校技術・家庭科（技術分野）の「エネルギー変換の技術」並びに「情報の技術」の学習は深く関連しており、小・中学校で同系列の教材、教具を使うことは大変効果的であった。

これを受け、本年度は、大瀬小学校と大瀬中学校が以下のような取組を行った。

夏季休業中に中学校技術・家庭科（技術分野）担当教員が小学校に出向き、導入されている教材の使用法や、県のプログラミング教育コミュニティサイトに紹介されている授業展開の例を伝達した。6 学年担当教員が研修主任を務めていることもあり、伝達した情報を元に校内研修として授業を行うことになった。

原稿執筆時点では授業実践はまだ行っていないので、効果は未知数だが、同じ教員の立場で直接実技伝達を行い、教材の使用法や実践例を共有したことで、小学校側の不安感や負担感を大幅に軽減でき、「これならできそうだ」と思えたこと自体が成果であると考えられる。この地域は 1 小 1 中で、職場体験や人権まつりなど、小・中学校の児童生徒並びに教職員が交流する機会が多い地域でもある。プログラミング教育にも地域ぐるみで取り組んでいきたい。

このような先進的な取組を行った学校から近隣の学校へと実践が広がることを期待される。



【図 2 夏季休業中の伝達の様子】